

## 答辞

春の訪れとともに、私たちの新たな旅立ちの日が訪れました。本日こうして卒業式を迎えられますことを、心より嬉しく思います。本日は、ご多用のなかご臨席くださいました教職員の皆様、ご来賓の皆様、そして長きにわたり私たちを支えてくださった保護者の皆様に、卒業生一同、心より御礼申し上げます。

四年前の四月、私たちはこの大講堂で、期待に胸を膨らませながら大学生活のスタートラインに立ちました。——ただ、その始まり方は想像とは少し違いました。保護者のいない入学式、画面越しの講義、そして初めて友人の顔を見たのは Zoom の小さな四角い枠の中。「これが憧れのキャンパスライフ……？」と戸惑いを隠せなかったことを、今でもよく覚えています。

そんな困難な状況の中、私たちを支えてくださったのが、先生方の温かい応援でした。私たちが悩んだり要望を出したりすると、「何とか実現してあげよう」と真摯に動いてくださり、学びの場を少しでも充実させてくれました。これほど先生と学生の距離が近い大学はなかなかないようです。

例えば、国際教養学部の方先生は、勉強に疲れていた私に、毎週火曜日、キッチンカーのタコライスを食べながら私の趣味であるアニメの話に乗ってくださいました。ウシク先生は、私の卒業論文を、指導教官ではないにもかかわらず、データ分析の専門家として親身にサポートしてくださいました。論文は最終的に先生との共著論文として国際学会に提出することになりました。そして、私が留学から帰国し、進路に迷っていたとき、大学院進学、研究者としての道を示してくださったのが指導教官の古瀬先生です。先生の背中を追いかけて、私は4月から先生の母校である一橋大学経営管理研究科に進学することとなりました。

また、武蔵大学といえば「ゼミの武蔵」と評されるほど専門的で深い学びが特徴ですが、私たちが所属したPDP（パラレル・ディグリー・プログラム）では、武蔵大学とロンドン大学の双方の課程を同時に進めるという、大変骨の折れる日々を経験しました。その大変さと成長は比例することを実感しつつも、「ロンドン大の課題締切は来週、武蔵の試験は明日。では私の睡眠時間はどこへ……？」と頭を抱えることも少なくありませんでした。

そんな日々の中で、私たちを支えてくれたのは「仲間」の存在でした。深夜までオンラインで勉強し、11号館4階のグループスタディルームや図書館の自習室で教え合い、悩みを打ち明け、ときにはゲームで思いきり息抜きをする——そんな何気ない時間が、どれほどの支えになったことでしょうか。仲間と切磋琢磨し合うことで乗り越えた壁があり、共に笑い合うことで救われた瞬間もたくさんありました。こうした友情や協力の大切さは、これからの人生のさまざまな場面でも必ず私たちを助けてくれるはずで

最後になりますが、私たちを導いてくださった経済学部の先生方、温かく見守り、ときには厳しく背中を押してくれた家族、そして共に歩んできた仲間たちに、心より感謝申し上げます。皆様のご健康と武蔵大学のさらなる発展を祈念し、卒業生一同を代表して、ここに答辞とさせていただきます。

2025年3月

武蔵大学 第73回卒業生代表

経済学部経営学科 松笠滉節